HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	フォーラム 「公教育のなかの境界」 に寄せて
Author(s)	北村, 嘉恵
Citation	教育史・比較教育論考, 20, 1-1
Issue Date	2010-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43755
Type	other
File Information	kitamura1.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

フォーラム「公教育のなかの境界」に寄せて

北村嘉恵

2010年2月6日（土)、北海道大学にて、若手研究者フォーラム「公教育のなかの境界」を開催しました。その概要は以下の通りです（所属は報告時のもの)。

趣　旨：日本の公教育制度における境界のありようや、公教育の内実をめぐる人々の葛藤･軋轢･模索の痕跡を、在日朝鮮人の戦後史に焦点をあてて具体的にたどり、現代の教育課題を見据えていくための手がかりをさぐる。
報告者：藤原智子（北海道大学大学院教育学院修士課程）
「占領期在日朝鮮人教育史　―山口県に着目して」
報告者：松下佳弘（京都大学大学院教育学研究科修士課程・世界人権問題研究センター嘱託研究員）
「占領期における朝鮮人学校政策の展開　―京都府・滋賀県の事例から」
討論者：小林知子（福岡教育大学)
司　会：北村嘉恵（北海道大学)

この企画は、同じ時期（2009年度）に修士論文を執筆された藤原さん、松下さんの成果と課題を持ち寄って討議する場を設けたいと考えたことに始まります。幸い、グローバルCOE「境界研究の拠点形成」（北海道大学、研究代表者：岩下明裕）の事業の一環として経費補助を得ることができ、討論者として小林知子さんにお越しいただくとともに、鄭祐宗さん（大阪大学大学院)、木村健二さん（下関市立大学）にも討論に加わっていただくことができました。小林知子さんは、SCAP文書、政府文書、地方行政文書、運動側文書等を突き合わせながら戦後在日朝鮮人史研究を進めてこられた方です。鄭祐宗さんは、大阪の朝鮮人運動史を主な研究対象として、より広い視野から制度・政策・実践に関わる資料を各地で丹念に調査しておられます。他方、木村健二さんは、山口県出身者をはじめとする日本人の朝鮮移住・引揚げの歴史、日本帝国内外の人々の移動・定住の歴史を研究されています。また、北大教育学院やスラブ研究センターの教員・大学院生をはじめ、幅広い専門領域の方に多数参加いただくことができ、刺激的な議論の時となりました。

このフォーラムの記録として、藤原さん、松下さんに報告の一部をとりまとめていただくとともに、両報告への「応答」として鄭祐宗さんに「解放後在日朝鮮人教育史研究の方法と実践」をご寄稿いただきました。また、討議の内容をあわせて載録することとしました。引き続き議論を重ねていきたく願います。お忙しい中をご参加くださったみなさま、原稿の執筆、校正にお時間を割いてくださったみなさまに、心から感謝申しあげます。